



2020.7.5

MESSAGE NOTES

祈りに関するイエスの教え

ロイド フラハティ

ルカの福音書 11 章 1 節 「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」

1. 祈る理由

祈りは人からの注目や賞賛を得るためにするべきではないとイエスは言われた。

マタイの福音書 6 章 5～6 節 5 また、祈るとき偽善者たちのようであってははいけません。彼らは人々に見えるように、会堂や大通りの角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。6 あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見えておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

2. 父はあなたの必要なものを知っておられる

イエスは異邦人（神様を知らない人）のように祈ってはいけないと言われました。

マタイの福音書 6 章 7～8 節 7 また、祈るとき、異邦人のように、同じことばをただ繰り返してはいけません。彼らは、ことば数が多いことで聞かれると思っているのです。8 ですから、彼らと同じようにしてはいけません。あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです。

主の祈り（復習）マタイの福音書 6 章 9～15 節

3. イエスは赦すようにと言われた

祈り方についてイエスが教えられた時、同時に時間を割いて赦しについて教えられたということはとても重要なことです。

4. どうやって赦すのか

「もう死んでしまってここに居ない人を赦すにはどうしたらいいの？」

「赦せないようなことをした人のことをどのように赦すことができるの？」

赦しは有毒なゴミを手放すことに似ています。いつまでも持っていないで、手放しましょう。

まとめ：天の父なる神様、と私達が祈る時、神様と自分の関係を再確認することになります。

ヤコブの手紙 1 章 17 節

すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。父には、移り変わりや、天体の運行によって生じる影のようなものはありません。

天の父なる神様との関係があるからこそ毎日祈りましょう。神様が私達を赦してくださったように私達も互いに赦し合いましょう。ー アーメン